

参加無料

対面 / オンライン

世界中で激しい気象災害が広がり、地球環境の将来に対する危機感が高まっています。それに対してカーボンニュートラルと適応策両面での対応策の加速が叫ばれ、我が国でも対策の進展が求められています。本シンポジウムでは、IPCC第6次及び第7次評価の共同議長をお招きし、気候変動問題に関する最新の知見を紹介するとともに、今後の課題について議論します。

気候変動国際シンポジウム

適応・緩和研究の展望

# 気候変動対策と 未来ビジョン

2023年

10月18日 [水]

10:00~17:00

会場: 東京大学伊藤国際学術研究センター  
伊藤謝恩ホール・多目的スペース

事前登録制

シンポジウムの詳細・参加登録はこちらをご覧ください。

<https://s-18ccap.jp/symposium%e3%83%bbseminar/post-2017/>



## プログラム

### 研究交流ポスターセッション

10:00~12:00

自由参加(伊藤国際学術研究センター多目的スペース)

### 気候変動国際シンポジウム(日英同時通訳)

総合司会 村山 顕人(東京大学)

13:00

挨拶及び趣旨説明

三村 信男(茨城大学、S-18 プロジェクトリーダー)

13:15

基調講演

「Climate policies: a plea for timely and ambitious action」

Hans-Otto Pörtner(ドイツ Alfred-Wegener Institute、  
IPCC AR6WGII 共同議長)

13:50

セッション1「影響・リスク・脆弱性と気候変動対策の効果」

「Climate change impacts and adaptation policy in the urban context: From IPCC AR6 to AR7」

Winston Chow(シンガポールマネジメント大学、  
IPCC AR7 WGII 共同議長)

「人間健康や生物多様性も考慮した気候変動の総費用」

沖 大幹(東京大学、UTCCS 機構長)

「日本における洪水の適応策と緩和策の評価」

風間 聡(東北大学)

「地域生活への気候変動リスクの総合的評価と適応の課題」

栗栖 聖(東京大学)

パネル討論

コーディネーター 長谷川 利拡(農研機構)

15:20

休憩

15:30

セッション2「将来の社会に向けた統合的ビジョン」

「気候政策が水に関するSDG目標へ与えるグローバルな影響」

平林 由希子(芝浦工業大学)

「気候変動と自然共生社会」

山野 博哉(国立環境研究所)

「日本の社会課題を考慮した総合的な適応策」

日引 聡(東北大学)

「人新世における地域社会の未来ビジョン」

福士 謙介(東京大学、IFI センター長)

パネル討論

コーディネーター 杉山 昌広(東京大学)

17:00

閉会